

授業科目名	助産学概論(2300261)		
時間割名	助産学概論(41208)		
時間割担当	服部律子		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	木・1		

授業の目標・概要

1. 学生が自分の助産観を構築するため、助産の概念、助産の定義について専門機能団体、諸外国の考え方を学習する。
2. 日本及び諸外国における助産の変遷、産育習俗について知り、助産師の役割について考察する。
3. 助産師の専門性、質の高い助産ケアを実践するために必要な助産診断と助産過程の展開の基本を習得する。
4. 助産師の使命や活動について理解を深め、将来の助産師活動を考える。

学習の到達目標

1. 助産の概念や定義について説明することができる。
2. 助産や母子保健の変遷を踏まえ、助産師の役割について考察することができる。
3. 助産過程の展開について説明することができる。
4. 今後の助産師活動を展望することができる。

授業方法・形式

講義・グループディスカッション

授業計画

- 第1回 助産の概念
助産の起源、出産の変遷
- 第2回 助産の定義
助産の定義、助産の意義・本質、助産の将来
- 第3回 助産に関する概念
リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー、性差医療
- 第4回 わが国における助産師の定義と業務
関連法規、助産師の業務と責務
- 第5回 諸外国における助産
諸外国の助産師制度、助産師活動、ICM
- 第6回 わが国の母子保健の変遷
母子保健水準、母子保健施策、母子保健の基盤整備
- 第7回 助産の歴史と文化 1
わが国における助産の変遷
- 第8回 助産の歴史と文化 2
諸外国における助産の変遷
- 第9回 助産師と教育
わが国の教育、諸外国の教育
- 第10回 助産学を支える理論
助産実践を支える理論、助産学の関連領域と探究方法
- 第11回 助産師と倫理
生命倫理、職業倫理
- 第12回 助産過程の基本
助産診断、助産援助
- 第13回 基本となる助産診断技術
診察技術
- 第14回 基本となる助産援助技術
援助技術
- 第15回 まとめ

成績評価の基準

最終レポート50%、授業期間中の課題40%、グループディスカッションへの参加態度10%

授業時間外の課題

各授業で扱うテーマについて、事前に情報を集めて授業に出席すること。
各授業の後には学んだ内容やその中で自分が感じたり考えたことを整理しておきましょう。

メッセージ

この科目は、助産を実践する上での基本となる科目です。科目で扱う様々なテーマについて、自らが考えること、感じることを、そして、他の学生と話し合うことで多様な価値観や考え方に触れ、自らの助産観を構築していくよう心がけてください。

教材・教科書

我部山キヨ子編、助産学講座 1 基礎助産学 1 助産学概論、医学書院

参考書

必要に応じて適宜提示します。